

# お墓は最愛の人への プレゼントです。

それは、ミエさんにとって思いもよらぬ出来事でした。最愛の「主人様が突然旅立たれてしまったのです。誰にも「さよなら」を言うこともなく…」

いくら待つても、想つても、もう彼が戻ってくることはない一頭ではわかつていても、なかなか現実のこととして受け留められなかつた奥様は、「お墓なんてとてもつくる気になれませんでした」と振り返ります。

そんな奥様の気持ちが少しだけ変わったのは、「お墓を最後のプレゼントにしよう」という思いがふつと心に浮かんだからです。それから多くの墓地を見学するものの、迷うばかり、そんな時、何度も訪れたはずの「みどりヶ丘聖光苑」で、素晴らしい景色を目にしました。

「みどりヶ丘聖光苑」の最上段は、空に手が届きそうなほど明るく広い空間。目前には「主人が好きだったビオーネの畑が広がり、遠くに望む金甲山」。ここならきっと主人も喜んでくれる。ここにお墓を建ててあげようと決めた瞬間でした。

墓地が決まるごとに、次はお墓のデザインや石の色、彫入することばや彫刻する位置、たくさん悩みながら全てにこだわりました。そうして出来上がつたのが、高級

感漂う黒色の墓石に美しいレリーフが映えるシックなお墓。

そこにはゴルフが大好きだったご主人様を想い、奥様のイメージのまま、ゴルフボ一

ルと一緒に愛用していたドライバーの立体彫刻が施されています。

「ほなな」の言葉は、徳島弁で「じやあね」という意味。優しい響きのこの言葉は、電話を切るときなど必ず言つた「繋。誰にもお別れを言えずに逝ってしまった」。主人様がここで「ほなな」と言えるように、この言葉に決められたそうです。

そして「人生は愉しく」はご主人様がある時ふと漏らした言葉。「人間は愉しむために生まれてきたんだから、人生は愉しなだらいいんや」—お墓に来てくれた人が「そうか、それでいいんか」と思つて帰つてくれたら…。と奥様。

全てにご主人様の人柄と、奥様の想いがあふれています。お墓に奥様の直筆サイン「MIE」が入つて、深い愛情の詰まつたプレゼントが出来上がりました。

四季の美しい花々と心地よい風、そして小鳥のさえずり、ため息の出るような景色：「ここにきたらホッと安らげるんです」奥様はじめて友人の方々にも寛ぎの空間になっています。

春の暖かい日差しの中、今日もゴルフをされているかもしません。

「ほなな…」



墓地の聖光苑

TEL.0120-379481